

# 昭和50～59年

1975～1984

三重県遺族会館が完成、  
団結も強まる



昭和51年、母への感謝大会



昭和50年、三重県護国神社に  
天皇皇后両陛下が御参拝



昭和51年、三重県青年部主催の海外戦跡慰霊団がフィリピンへ



昭和52年、田川知事に陳情する婦人部代表

## 世相メモ 昭和53年

昭和47(1972)年、田中角栄首相が訪中。田中首相と周恩来中国首相が日中共同声明に調印し、昭和53(1978)年、北京人民大会堂で「日中平和友好条約」が締結され、戦後33年ぶりの国交正常化が実現された。

昭和50年 (1975)

7月 三重県遺族会館、護国神社境内に竣工  
10月 昭和天皇・皇后両陛下、三重県護国神社にご参拝

12月 県青年部、三重県遺族会館内に三重県母の像建立

昭和51年 (1976)

4月 青年部七代目部長に渡辺九仁也氏  
5月 三重県遺族会館で初の「母への感謝大会」開く  
6月 英霊にこたえる会全国組織発足

7月 県青年部主催初の海外戦跡慰霊団フィリピンへ派遣

昭和52年 (1977)

2月 三重県遺族会、財団法人となる  
11月 婦人部代表、三重県知事と懇談、全国戦没者追悼式参列と県下婦人部互助共励事業への県費助成を要請

昭和53年 (1978)

5月 三重県遺族会結成30周年記念式典  
8月 全国戦没者追悼式参列に県費助成が実現、400名参加  
英霊にこたえる会三重県本部発足

12月 三重県議会「靖国神社公式参拝実現促進」を議決

昭和54年 (1979)

5月 青年部八代目部長に谷嘉昭氏(再任)

**世相メモ**  
**昭和56年**

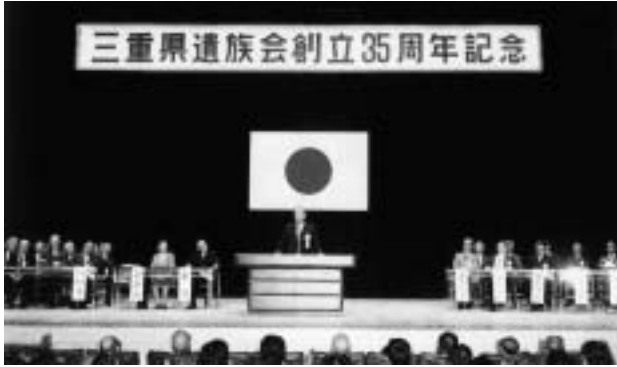
この年、中国残留孤児47名が厚生省（現厚生労働省）の招きにより、初めて日本を訪れた。終戦直後に中国・東北地区、旧満州で家族と生き別れになったまま中国人に育てられ、日本人であること以外身元がわからないことも多く、肉親探しは困難を極めるものもあった。



昭和54年、遺骨収集に参加する齋藤十朗議員と渡辺九仁也氏



昭和53年、「英霊にこたえる会」三重県本部結成大会



昭和57年、三重県遺族会創立35周年記念大会を開催



昭和56年、戦没者の父母の皆さんが遺族会館に集合

◎婦人部互助共励事業について  
婦人部（会員7559名）は、会員1名あたり30000円の拠出金により総計1500万円、それに県の助成金1100万円を加え、婦人部互助共励事業を開始した。



青年部を激励する三重県婦人部代表



昭和59年、青年部による靖国神社公式参拝を願う断食祈願

- 昭和55年（1980）
  - 6月 マリアナ諸島遺骨収集政府派遣団出発、齋藤十朗参議院議員（当時）も特別参加された
  - 7月 九段会館新館ホテル竣工
  - 12月 昭和55年度政府予算に初の遺児記念館調査費つく
- 昭和56年（1981）
  - 4月 県遺族会婦人部結成30周年、同青年部20周年記念
  - 「靖国の妻と子の集い」開催
  - 10月 県遺族会、戦没者の父母への感謝大会開催
- 昭和57年（1982）
  - 6月 三重県護国神社社殿修復・社務所改築造営着工
  - 8月15日 政府は以前の「終戦記念日」を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」として制定
  - 10月 三重県遺族会結成35周年記念大会
  - 三重県遺族会婦人部互助共励事業スタート
- 昭和58年（1983）
  - 4月 三重県護国神社社殿修復・社務所改築造営事業竣工
- 昭和59年（1984）
  - 8月 日本遺族会青年部、総理大臣の靖国公式参拝を求め、靖国神社に断食祈願